

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	こどもの理解と援助		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	保育者には、子どもを理解したうえでの援助が求められる。本授業科目では、こども理解を深めるための様々な視点や方法を学ぶとともに、それを踏まえた上での援助の考え方や方法について学ぶ。	
学年	2年		
コース	—	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。	
授業回数	8回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	1単位	こども理解に基づく保育士の援助や態度について学び実践できるようにする。	
授業担当者	大川美佐子		
実務家教員	○		
使用テキスト 参考文献	「こども理解と相談支援」 著者:稲田達也 他 発行者:豊岡短期大学		
評価方法	授業態度・提出物・科目試験を総合して評価する。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	子どもの実態に応じた発達や学びの把握①	・保育における子ども理解の意義	
2	子どもの実態に応じた発達や学びの把握②	子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開・子どもに対する共感的理解と子どもとの関り	
3	子どもを理解する視点①	・子どもの生活や遊び・保育の人的環境としての保育者と子どもの発達・子ども相互の関わりと関係づくり	
4	子どもを理解する視点②	・集団における経験と育ち・葛藤やつまづき・保育の環境の理解と構成・環境の変化や移行	
5	子どもを理解する方法①	・観察・記録・省察・評価	
6	子どもを理解する方法②	・職員間の対話・保護者との情報の共有	
7	子どもの理解に基づく発達援助①	・発達の課題に応じた援助と関わり	
8	子どもの理解に基づく発達援助②	・特別な配慮を要する子どもの理解と援助・発達の連続性と就学への支援	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	こどもの保健		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	こどもの成長過程を安全に、より健康的に手助けするために、こどもの発育や身体特徴を理解し、こどもへの接し方について総合的に学習する。 また、こどもの事故や安全対策について理解し基本対応について学習する。	
学年	2年		
コース	—	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	小児保健を統計学的視点や母子保健との関連性からも捉え、こどもの各期の発達、成長の特徴を理解する。また、こどもの健康課題や日常保育の中で起こる事象に対して速やかに対応できるように学習する。	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	2単位	こどもが健康に過ごせるように知識を身につける。	
授業担当者	杉浦 美恵子		
実務家教員	○		
使用テキスト 参考文献	「子どもの保健」中根淳子編著(ななみ書房)		
評価方法	授業態度、科目試験の結果を総合して評価する。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	子どもの心身の保健と保健の意義	生命保持と情緒の安定に関わる保健活動の意義と目的について学ぶ	
2	健康の概念と健康指標	健康の概念・子どもの健康指標ついて学ぶ	
3	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題	子どもの貧困・医療的ケア児・地域における保健活動と子ども虐待防止について学ぶ	
4	身体的発育及び運動機能の発達と保健	乳幼児期の身体発育の概要について学ぶ	
5	生理機能の発達と保健①	呼吸機能・循環機能・免疫機能・消化機能・尿排泄機能の発達について学ぶ	
6	生理機能の発達と保健②	感覚機能の発達について学ぶ	
7	発達に即応した基本的生活習慣の形成	睡眠・食・排泄・清潔習慣について学ぶ	
8	子どもの心身の健康状態とその把握	健康状態の観察について学ぶ	
9	発育・発達の把握と健康診断①	身体発育の評価について学ぶ	
10	発育・発達の把握と健康診断②	保護者との情報共有について学ぶ	
11	子どもの疾病の予防及び適切な対応①	保育の現場でよくある疾患 感染症と予防接種について学ぶ	
12	子どもの疾病の予防及び適切な対応②	保育の現場でよくある疾患 先天異常・アレルギー疾患・消化器疾患について学ぶ	
13	子どもの疾病の予防及び適切な対応③	保育の現場でよくある疾患 呼吸器疾患・循環器疾患・血液疾患・神経系疾患について学ぶ	
14	子どもの疾病の予防及び適切な対応④	保育の現場でよくある疾患 皮膚の疾患・目の疾患・耳の疾患について学ぶ	
15	健康および安全の実施体制	職員間の連携と組織定取り組み・主な母子保健対策と保育について学ぶ	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	こどもの食と栄養		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	生涯にわたる健康と生活の基礎が形成される乳幼児の食生活は、その後の健康に影響を及ぼす。そのため、健康な生活の基本となる食生活の意義や栄養に関する知識を学び、家庭や児童福祉施設における食事と栄養について学び、特別な配慮を要するこどもの食栄養について理解する。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	普段からあらゆる視点でこどもの食と栄養について興味関心を持ち、テキストや参考図書だけでなく、演習や調理実習を通して、より広い視点からこどもの食と栄養について理解する。	
授業回数	15回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	2単位	・食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 ・こどもの健全な発育発達にあわせた食生活と健康と食生活の関連を理解する。 ・養護と教育の一体性を踏まえた、保育における食育の意義・目的・考え方とその内容について理解する。 ・こどもの食生活の現状と課題や、特別な配慮を要するこどもの食と栄養について理解する。	
授業担当者	伊藤 知圭子		
実務家教員	○		
使用テキスト 参考文献	・「子どもの食と栄養」久保田絹江著 ・「保育所保育指針」 ・「幼稚園教育要領」 ・「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」 ・「保育所における食事の提供ガイドライン」		
評価方法	授業態度20%、提出物20%、科目試験60%で評価する。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	子どもの健康と食生活の意義	子どもの心身の健康と食生活を学び、食生活の現状と課題を考える。	
2	栄養に関する基本的知識	栄養の基本的概念と栄養素、食事摂取基準と調理の基本を学び、献立を考える。(食事バランスガイド)	
3	乳児期の発育・発達と食生活	乳児期の授乳・離乳の意義、幼児期の心身の発達と食生活について学ぶ。	
4	幼児期・学童期の食生活	幼児期・学童期の心身の発達と食生活ついて学ぶ。	
5	調理実習 (乳幼児食)	調理実習を通して、乳幼児の食事について理解する。	
6			
7	食育の基本	食育の意義・目的、計画の作成・評価、環境について学ぶ。	
8	食育の内容	保護者や地域の関係者等との連携した食育の取組について学び、理解を深める。	
9	調理実習 (行事食)	調理実習を通して、環境としての食事について理解する。	
10			
11	家庭や入所施設の食事と栄養	家庭における食生活の現状と課題を学び、保育所給食の役割について考える。 入所施設の食事と栄養について考える。	
12	特別な配慮を要するこどもの食と栄養	疾病及び体調不良の子ども、食物アレルギーのある子ども、障害のある子どもへの対応について学ぶ。	
13	調理実習 (代替食)	調理実習を通して、個別化対応の食事について理解する。	
14			
15	まとめ	食への理解を深め、「楽しく食べるこどもに」の実践を考える。	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	教育課程論		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	幼児教育・保育における教育課程・保育課程の意義と役割を明らかにする。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	幼児・子どもを育てるうえで、大切なこと(目標)、どのような方法・手立て(方針)、どのような内容で、どの時期に、どんな環境で、などを学ぶ。	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	2単位	1.幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷について理解できる。 2.教育課程・保育課程編成の留意点について説明できる。 3.編成・実践・点検・評価・改善の過程についてその全体像をとらえ理解できる。 4.保護者や関係機関との連携について理解できる。	
授業担当者	井上充子		
実務家教員	○		
使用テキスト 参考文献	・「教育課程論」(配本テキスト) ・「幼稚園教育要領」並びに「保育所保育指針(解説書含む)」		
評価方法	レポート、科目試験の結果を総合して評価する。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	教育課程・保育課程編成の基本的な考え方	教育課程、保育課程とは・カリキュラムの概念を学ぶ	
2	カリキュラムの基礎理論	保育カリキュラムの基本的性格・保育の場と保育カリキュラムについて学ぶ	
3	日本における教育課程・保育課程の変遷	保育カリキュラムの構成要素・発達観、子ども観、教育観、保育観について学ぶ	
4	時代の変化に対応した幼稚園の教育課程の在り方	学習指導要領	
5	教育課程・全体的な計画に関わる法規の理解	幼稚園・保育園・認定こども園の関係法規および行政の仕組みについて学ぶ	
6	学習指導要領の変遷とその特色の	学習指導要領の構成・改定に至る経緯・改定の基本的な方針について学ぶ	
7	園における長期・短期の指導計画	指導計画とは・指導計画作成の基本姿勢・指導計画の実際について学ぶ	
8	教育課程・保育課程編成の実際	保育における評価・園の自己評価の在り方・教育課程、保育課程の改善について学ぶ	
9	保育の基本と実践	記録及び省察による教育・保育の質向上	
10	学びをつなぐ幼・保・小連携カリキュラム	連携の推進の水準位相・教育機関相互における連携類型について学ぶ	
11	明治・大正・昭和前期、後期の保育の歴史	保育の歴史的変遷について学ぶ	
12	危機管理保育のカリキュラムの意義と必要性	子どもの命を守る安心。安全の生活環境・学校園内の危機管理と指導について学ぶ	
13	幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の変遷について学ぶ	
14	教育課程をめぐる諸問題	山積みするカリキュラムの課題について学ぶ	
15	信頼される園づくりと地域子育て支援	園の外部との関係づくりや、新たな園の役割について学ぶ	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	保育内容総論		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	今までの実習を踏まえ、乳幼児の理解を深める。	
学年	2年		
コース	—	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	保育の援助技術とは何かについて理解し、実習を通して、保育の援助技術を自分の物として身に付け専門性を高められるようにする。そして、それらのねらいの全てが子どもの「最善の利益を保障する」ためのものであることを理解する。	
授業回数	8回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	1単位	保育士に求められる資質、能力、技術に照らし合わせて、自己の課題を明確にし、課題を克服する。	
授業担当者	杉山 有美		
実務家教員	○		
使用テキスト 参考文献	「保育内容総論」戸江 茂博 著		
評価方法	レポート、課題、科目試験の結果を総合して評価する。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	保育の全体的構造	育みたい資質・能力の三つの柱と幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿について学ぶ	
2	レポートかだ	保育所保育指針改定のポイントについて学ぶ	
3	レポート課題	非認知能力について学び、保育実践について考える	
4	乳幼児期にふさわしい生活と保育内容	乳幼児期にとっても園行事、幼保小の円滑な連携について学ぶ	
5	生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開	環境を通して行う保育・遊びによる総合的な保育について学ぶ	
6	全体的な計画の作成と指導計画の作成	全体的な計画の作成・指導計画の作成手順と配慮	
7	保育の評価と保育の記録	幼児理解に基づく評価・観察記録を書く意味と幼児理解	
8	保育内容の現代的課題について	子育て支援・多文化共生保育	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	こどもと健康		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	こどもの健康を守るための保育者の援助方法、関わり方について学ぶ。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	乳幼児期は、生涯にわたって必要となる心と身体の基礎を作る重要な時期である。子どもの健康を守り育てるためには、実際の保育面で子どもの発達をどのようにとらえ、どのような内容について、どのように指導し援助することが効果的かについて学習する。	
授業回数	8回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	1単位	幼児の発達・学びの過程を理解し、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。	
授業担当者	山本佳郁代		
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	「幼稚園教育要領」・「保育所保育指針」・子どものこころとからだを育てる保育内容「健康」 高内正子 編著(教育情報出版)		
評価方法	授業態度、課題、試験の結果を総合して評価する。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	領域「健康」について	変化する子どもの育ち・領域「健康」について学ぶ	
2	世界保健機構について	健康の定義(WHO)が示す「健康」とは何か考える	
3	健康の問題点	現代の子どもの健康の問題点について考える	
4	保育者の役割	子どもの健康を守るための保育者の役割/子どもを取り巻く親の問題	
5	行事と健康について①	日本の伝統的民俗行事と健康について	
6	行事と健康について②	保育行事と子どもの健康な育ちについて	
7	子どもといのちの教育①	現代のいのちをめぐる問題点	
8	子どもといのちの教育②	子どもに知らせるいのちの大切さ	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	こどもと環境		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	保育内容「環境」のねらい及び内容について理解を深めるとともに、子どもの発達における環境の意義や役割について学ぶ。 子ども達によりよい物的環境、人的環境を提供できる素地を培う。	
学年	2年		
コース	—	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	・「環境」という言葉をキーワードに、様々な視点から保育者として必要な基礎知識を学ぶ。 ・「体験する」「調べる」「考える」ことを通して、対象となる素材や遊びを学ぶ。	
授業回数	8回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	1単位	保育内容の「環境」のねらいと内容を理解する。こどもを取り巻く様々な環境の理解と関心を持つ。保育者の役割を常に考え、保育実践力をつける。	
授業担当者	山本佳郁代		
実務家教員	○		
使用テキスト 参考文献	・「幼稚園教育要領解説」並びに「保育所保育指針解説書」 ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 ・適宜、資料を配布する		
評価方法	授業態度、提出物、科目試験の結果を総合して評価する。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	「環境」とは	環境という言葉、環境の定義・環境を通して行う保育の意味について学ぶ	
2	領域「環境」の位置付け	ねらいと内容・指導上の留意点と指導計画・評価の考え方について学ぶ	
3	季節感を味わい、自然をよく知る	身近な植物・食べ物について知り保育に取り入れる方法や、季節を感じられる保育について考える	
4	身のまわりの物に愛着をもつ	身の回りにある物を使って何が作れるかを考え、実践する	
5	生命の営みにふれる	生きているものを取り入れた保育について考える	
6	数量・図形に親しむ、科学を体験する	標識、文字との出会い・数量と図形、ものの性質との出会いについて学ぶ	
7	こどもの遊びの世界における「3間」の意味と保育の課題	指導案作成における3間(時間・空間・仲間)の重要性 小学校との連携理解について学ぶ	
8	まとめ	授業を振り返り、学習の定着を図る	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	こどもと造形表現		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	保育内容を理解し、乳幼児を含めたこどもの造形の指導援助者として、こどもの発達と保育の中で取り扱う教材に必要な知識、さらに材料・用具の操作体験など実践学習を通して、体験的・技術的に学習する。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	乳幼児の表現活動の大切さと発達過程や造形的な表現の特徴を理解する学習をする。さらに、材料・用具、手法をもとに「えがく」「つくる」「造形遊び」などの題材や環境構成、援助のあり方についての知識と製作体験とを関連づけながら学習を深める。	
授業回数	8回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	1単位	乳幼児の感性、興味を見出し、豊かで安定した子どもを育てる指導者としての自覚を持ち、具体的かつ効果的な指導法を身につける。	
授業担当者	廣瀬絵美		
実務家教員	○		
使用テキスト 参考文献	必要な際は、教員が随時資料配布		
評価方法	・出席率80%であること。 ・授業態度および試験結果、作品提出を総合的に評価する。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	「表現」のねらいと内容	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園 教育・保育要領における「表現」領域および小学校との連携について	
2	乳幼児の表現活動の大切さについて	乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴の理解	
3	指導・援助・評価について	こどもの発達段階における表現の指導・援助(指導案)と評価について	
4	教材研究を伴う製作①	発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴を理解する。「えがく」について	
5	教材研究を伴う製作②	発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴を理解する。「つくる」について	
6	教材研究を伴う製作③	発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴を理解する。「造形あそび」について	
7	造形表現活動の展開と援助①	えがく・つくる・造形あそびについての実践的な指導法(模擬保育)の学習	
8	造形表現活動の展開と援助②	情報機器及び教材の活用について	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	こどもと造形		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	保育の内容を理解し、造形の基本的な知識と特に手の動き・感性・思考が一体となった実践学習を通して造形感覚の基礎的陶冶を図る。また、乳幼児を含めたこどもの造形の指導・援助者として、造形教育の中で取り扱う教材に必要な知識や技能の習得を目的とする。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	幼児造形の指導・援助者として形や色等の造形の基本的な理論を学習しながら、実際にそれらについてテーマをもとに色彩分割及び構成学習を行う。また、具体的な描写によって観察力を養い、合わせて用具や描画材の特性を利用してさまざまな表現技法から想像力を高め、体験的に理解する。さらに、さまざまな素材をもとに、それらの特性を活かして創意工夫しながら製作を展開し、平面及び立体における造形教育に必要な知識や技術を身につける。	
授業回数	8回		
授業形態	演習		
取得単位数	1単位	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業担当者	廣瀬絵美	1、乳幼児造形教育の指導・援助者として必要となる形や色や質感等の基本的な知識及び技能について理解ができる。 2、えがく領域、つくる領域、造形あそびの領域の制作を通して、基礎的な知識及び技能について習得できる。 3、教材研究及び発表を行うことで思考力や表現力を高めることができる。	
実務家教員	○		
使用テキスト 参考文献	・「幼稚園教育要領解説」・「保育所保育指針解説書」		
評価方法	授業態度・作品提出を総合的に評価する。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	幼児造形教育の重要性と研究の視点	領域「表現」のねらいと内容・幼児期の造形あそびの重要性について学ぶ	
2	幼児造形の特徴・領域・道筋について	幼児期の造形の特徴・造形遊びの発達の道筋について学ぶ	
3	えがく領域に伴う製作Ⅰ	えがく活動における指導と援助について実際に行いながら学ぶ	
4	つくる領域に伴う製作Ⅱ	つくる活動における指導と援助について実際に行いながら学ぶ	
5	造形あそびの領域に伴う製作Ⅲ	造形遊びにおける指導と援助について実際に行いながら学ぶ	
6	造形あそびの領域に伴う製作Ⅳ	造形遊びにおける指導と援助について実際に行いながら学ぶ	
7	作品の研究及び発表	製作Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで作成した作品を発表し、アドバイスなどを話し合う	
8	保育展開について	えがく、つくる、造形あそびの保育展開(指導法)とまとめ	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	表現とこどもの運動		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	子どもたちが自分の思いや考えを他者に伝えることができるため多くの表現ができる環境設定が大切であることを理解し、身に着ける。年齢や環境に応じた動きや運動遊びと身体表現を通して子ども同士がどう工夫し、表現し、仲間とよりよく関わっていくことができるかを、発達段階に沿って展開させることを学ぶ。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	こどもの表現遊びを年齢に応じた発育発達の面から理解し、遊びの実践例から具体的なイメージを膨らませ、安全に楽しく遊びが展開できる知識および実践力を理論的に深める。	
授業回数	8回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	1単位	表現活動に、以下の内容が関係することを理解する。 ①日常における子どもの生活環境の変化②5領域との関連性③援助の在り方④安全性	
授業担当者	廣瀬絵美		
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	豊岡短期大学指定テキスト		
評価方法	課題・レポート・試験から総合的に評価する		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	社会的背景を考慮した遊び	地域社会、社会環境の変化について・遊び空間、時間、遊びの仲間、遊び方法の変化について 身体、形態、機能、こころの発育発達・こどもの運動能力と運動技能の発達	
2	発達と運動	発育発達 子どもと運動	
3	基本的な動き	基本運動・運動の機能 年齢発達における遊び・グループ遊び	
4	運動の役割と効果	体づくり運動や音・色などの刺激に対応する運動について	
5	子どもと表現運動 ①	野外遊び・サーキットあそびの実際 大型遊具・操作性遊具をもとにしたあそびについて	
6	子どもと表現運動 ②	活動的な伝承遊び・身近な素材活用遊びの実際と実践	
7	援助者の役割	「動くことを学ぶ」、「動きを通して表現する」の両方を統合的に援助する関りについて	
8	遊びの安全管理	安全の考え方、物的管理、人的管理・援助指導における安全性の配慮、野外活動における安全面配慮、移動遊具・固定遊具の点検と活用時の安全配慮 等	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	障害児保育		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	障害の種類や障がい児の特性、障がい児に対する保育方法等、障がい児を保育する際に必要な基本的知識を身に付け、実践できると力をつける。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	1. 様々な障害について理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について学ぶ。障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。 2. 障害のある子に関する施設について理解する。 3. 障害者(成人)の生活について考える。	
授業回数	15回		
授業形態	演習		
取得単位数	2単位	障がい児に対する先入観を払い、障がい児の生活を丁寧に捉え、支援するための基礎知識を身に付ける。	
授業担当者	後藤 明子		
実務家教員	○		
使用テキスト 参考文献	「キーワードで学ぶ 障害児保育入門」 七木田敦編著(保育出版社)		
評価方法	授業態度・提出課題および試験結果を総合的に判断する		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	障害児保育を支える理念①	障害児保育とは何か 映画を通じて考える①	
2	障害児保育を支える理念②	障害児保育とは何か 映画を通じて考える②	
3	障害児保育を支える理念③	障害児保育を考え方	
4	発達と障害	あたま・こころ・からだの発達と障害	
5	こどもの理解と保育の方法	保育観察と記録、園内体制と研修、問題行動への対応	
6	障害の理解①	発達障害の概要	
7	障害の理解②	知的障害	
8	障害の理解③	自閉症スペクトラム障害	
9	障害の理解④	ADHD／LD	
10	障害の理解⑤	その他の情緒障害	
11	障害の理解⑥	運動障害・病虚弱の子ども	
12	特別な配慮を要するこどもの保育の実際①	指導計画および個別の支援計画について	
13	特別な配慮を要するこどもの保育の実際②	障害児保育における子どもの健康と安全 職員間の連携・協働	
14	家庭および自治体・関係機関との連携①	保護者や家族に対する理解と支援 保護者間の交流や支え合いの意義とその支援	
15	家庭および自治体・関係機関との連携②	障害児支援の制度の理解と地域における自治体や関係機関について	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	社会的養護Ⅱ		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	社会的養護の実際を事例を通して理解し、養護に必要な知識・技術の基本を習得する。	
学年	2年		
コース	—	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	社計的養護を必要としている子どもたちとその家族を適切に支援できるように、援助者としての姿勢、支援計画の立て方、具体的な支援の進め方、社会的資源の活用の仕方などを事例を通して学ぶ。	
授業回数	8回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	1単位	社会的養護の対象の子どもやその家族を理解し、保育士としてその困難を共に支えるために必要な考え方や姿勢、活用できる技術、価値観を身に付ける。	
授業担当者	山本佳郁代		
実務家教員	○		
使用テキスト 参考文献	「社会的養護Ⅰ」石田易司編(豊岡短期大学)、「実践から学ぶ 社会的養護」 中山正雄編著(保育出版社)、随時資料配布		
評価方法	授業態度・提出課題および試験結果を総合的に判断する		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	ガイダンス	授業ガイダンス／社会的養護における子どもの理解	
2	子どもを取り巻く社会課題①	子どもを取り巻く現状と課題について 調べ学習	
3	子どもを取り巻く社会課題②	発表準備／発表	
4	社会的養護の重要性①	子ども虐待の現状と家庭の生活について学ぶ/事例検証	
5	社会的養護の重要性②	障害のある子どもの増加について学ぶ/事例検証	
6	児童福祉施設の役割①	各施設の現状と課題／児童福祉施設の果たす役割の増大について	
7	児童福祉施設の役割②	発表準備 /まとめ	
8	社会的養護と地域福祉	福祉施策の方向性と地域福祉について／まとめ	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	保育実習Ⅰ（保育所）		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	自ら学んだ保育の知識、技術を基礎として、それらを総合的に実践する応用力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟させることを目的とする。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	・保育実習Ⅰ 本実習10日間40時間以上を実施する。 ・部分実習・・・1回（手遊び・絵本の読み聞かせ） ・部分実習：1回実施する。	
授業回数	80時間		
授業形態	実習	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	2単位	・保育所の機能と保育士の職務について理解する。 ・保育士の乳幼児に対する援助方法を知り、実践する。	
授業担当者	杉山 有美		
実務家教員	○		
使用テキスト 参考文献	なし		
評価方法	成績評価票に基づいて評価する。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
	保育実習 （保育所）	＜ねらい＞ ・保育所の生活に実際に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、各施設の機能と保育士の職務について学ぶ。 ・観察・参加実習10日間、うち部分実習（手遊び・絵本の読み聞かせ）1日程度実施	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	保育実習Ⅰ（施設）		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	施設の生活に参加し、子どもへの理解を深めるとともに、各施設の機能とそこでの保育士の職務について学ぶ。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	施設実習及び10日間以上、且つ80時間以上を実施する。	
授業回数	80時間		
授業形態	実習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	2単位	施設の生活に参加し、子どもへの理解を深めるとともに、各施設の機能とそこでの保育士の職務について学ぶ。	
授業担当者	山本 佳郁代		
実務家教員	○		
使用テキスト 参考文献	なし		
評価方法	実習成績評価票に基づいて評価する。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
	施設の生活に参加し、子どもへの理解を深めるとともに、各施設の機能とそこでの保育士の職務について学ぶ。	<目標> ・施設の役割や機能、保育士の職務について学ぶ。 ・観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 ・施設における保育士の援助方法を知り、実践する。 <本学の定める施設の種類> ・養護系　／　乳児院、母子生活支援施設、児童養護施設 ・障害系　／　福祉型障害児入所施設、医療型障害児入所施設、福祉型児童発達支援センター 医療型児童発達支援センター、障害者支援施設 障害福祉サービス事業所(生活介護・自立訓練・就労支援)	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	保育実習指導Ⅱ（保育所）		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	保育所実習にあたり、その知識と心構えを学習する。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	保育の援助技術とは何かについて理解し、実習を通して、保育の援助技術を自分の物として身に付け専門性を高められるようにする。そして、それらのねらいの全てが子どもの「最善の利益を保障する」ためのものであることを確認する。	
授業回数	15回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	1単位	保育所保育の意義を知り、乳幼児期の特性を理解し、実習に生かせる知識・技術を身につける。	
授業担当者	杉山 有美		
実務家教員	○		
使用テキスト 参考文献	「成長し続ける教育・保育実習」 浦田雅夫編著 教育情報出版		
評価方法	出席率、授業態度、提出物を総合的に評価する。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	保育実技①	手遊び・歌遊び・絵本の読み聞かせ・パネルシアターのついて実践を通して学ぶ	
2	保育実技②	手遊び・歌遊び・絵本の読み聞かせ・パネルシアターのついて実践を通して学ぶ	
3	事例からエピソードを書く①	職場体験中にあった対応に困ってしまったエピソードを書き、グループワークを行う	
4	自宅学習 指導案作成	部分実習で行う主活動を企画し、指導案を作成する	
5	事例からエピソードを書く③	職場体験中にあった気になる子のエピソードを書き、対応についてグループワークを行う	
6	部分実習について①	指導案の書き方のポイントについて学ぶ	
7	部分実習について②	どのような活動があるのか	
8	実習準備	日誌の確認・出勤時間、持ち物等の確認・指導案の準備を行う	
9	実習日誌の書き方①	環境構成の見やすい書き方について学ぶ	
10	実習日誌の書き方②	実習の振り返りで課題となった部分について学び直す	
11	実習日誌の書き方③	子どもの活動についてどのようなことを具体的に書くのか、事例を通して学ぶ	
12	実習日誌について	課題の立て方・反省、考察の書き方について学ぶ	
13	実習前総括、 壮行会	実習に向けての確認・巡回教員との打合せを行う	
14	実習振り返り、実習事後レポート	事後レポート作成・今後の実習についての確認を行う	
15	指導計画の作成について	行いたい部分実習について指導案を作成する・作成した指導案の足りない部分を確認し、作成し直す	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	保育実習指導Ⅰ（施設）		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	施設実習に向けて、施設ごとの概要や施設実習の基本、施設保育士の職務について理解を深める。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	通年	実習先の状況についてDVDを活用し知る。その後、各自参加する実習先について詳細を調べ、実習目標の設定、記録の書き方等を学ぶ。	
授業回数	30回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	4単位	各施設の機能や役割について実習を通して学び、事後指導として施設保育士の役割や倫理観について振り返り自分なりの保育観を持つことを目指す。	
授業担当者	山本佳郁代		
実務家教員	○		
使用テキスト 参考文献	「事例を通して学びを深める 施設実習ガイド」田中利則 監修 ミネルヴァ書房		
評価方法	課題、提出物等を総合的に評価する。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	施設実習とは	施設実習の意義と目的、実習の概要を学ぶ	
2	施設を知る	児童福祉施設の種類と機能及び施設の子ども(利用者)を知る	
3	施設保育士の役割について	施設保育士の役割と職業倫理、実習までに見につけておくことは何かを学ぶ	
4	実習に臨むにあたっての心構え	実習に取り組む姿勢について学ぶ／実習要綱の確認	
5	実習書類作成	個人票・誓約書を作成する。	
6	児童福祉施設の実際を学ぶ①	『乳児院』について：DVDを見てワークシートを記入する	
7	児童福祉施設の実際を学ぶ②	『児童養護施設』について：DVDを見てワークシートを記入する	
8	児童福祉施設の実際を学ぶ③	『母子生活支援施設』について：VTRを見てワークシートを記入する	
9	児童福祉施設の実際を学ぶ④	『知的障害児施設』について：DVDを見てワークシートを記入する	
10	児童福祉施設の実際を学ぶ⑤	『肢体不自由児施設』について：DVDを見てワークシートを記入する	
11	児童福祉施設の実際を学ぶ⑥	『医療型障害児施設(重症心身障害児施設)』について：DVDを見てワークシートを記入する	
12	児童福祉施設の実際を学ぶ⑦	『児童発達支援センター』について：VTRを見てワークシートを記入する	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
13	障害者支援の実 際を学ぶ	障害者支援施設、障害福祉サービス事業所について学ぶ
14	実習先について の事前学習①	実習施設について、実習先の資料等を活用しワークシートを記入する
15	実習先について の事前学習②	実習施設の分野ごとに分かれ、情報を共有する
16	オリエンテーション について	事前オリエンテーションにおける留意点の確認及び報告書の書き方を学ぶ
17	実習計画①	施設実習の目的を明確にする
18	実習計画②	実習目標を立て、目標を達成するための手立てを考える
19	実習日誌につい て	実習日誌を書く意義及び書き方を学ぶ
20	指導案について ①	施設実習における部分実習のあり方及び指導案の書き方を学ぶ
21	指導案について ②	児童発達支援センターに合わせた指導案を作成する
22	事前準備①	自己紹介、保育教材等を製作する／実習先に応じた事前学習を行う
23	事前準備②	自己紹介、保育教材等を製作する／実習先に応じた事前学習を行う
24	事前準備③	事前学習の成果発表会
25	実習要綱の確認	実習中の心構えとマナー及び職員との関わりについて学ぶ
26	書類の取り扱いに ついて	実習中の書類の取り扱いと守秘義務について及び礼状の書き方を学ぶ
27	書類の確認	実習日誌、その他の必要書類を配布し確認する
28	激励会	実習巡回教員との打ち合わせを行う
29	実習事後の確認	お礼状・事後レポート作成
30	実習報告会	実習発表を行う

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	教職論		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職(保育)の意義、教職者(保育者)の役割・資質能力・職務内容等についての理解を深める。	
学年	2年		
コース	—	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	教職(保育)は、こどもの成長発達に指導、援助する仕事であることを理解し、教育(保育)への課題に関心を持ち、こどもに関わる専門性について学ぶとともに、あるべき教育(保育)のビジョンを明確にすることを主なテーマとし、自分が目指す教職者像の確立を図る。	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	2単位	1.時代の変化に応じた教員・保育士の在り方について理解する。 2.求められる教員・保育士の専門性について理解する。 3.教員・保育士を目指す者としての意欲・態度・自覚を高める。	
授業担当者	山本佳郁代		
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	・「教職論」(豊岡短期大学配本テキスト) ・「幼稚園教育要領」 ・「保育所保育指針(解説書含む)」		
評価方法	レポート、科目試験の結果を総合して評価する。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	教職(保育)とは何か	教職(保育)の意義、定義・教職(保育)者とは何かについて学ぶ	
2	教職(保育)者に求められる資質と能力	法律、制度が求める資質能力・保育者の資質、能力について学ぶ	
3	教員(保育士)養成の歴史	黎明期の保育と保育者・幼稚園の改革と保育者・保育所の誕生と保育者について学ぶ	
4	教職(保育)者の資質と役割	教育(保育)現場を取り巻く環境の変化・保育士に求められる資質と能力・幼稚園教諭に求められる資質と能力について学ぶ	
5	指導計画	教職(保育)にのっての指導計画の意義や、計画における留意点について学ぶ	
6	教職(保育)者の仕事・義務・研修	教員の仕事・教員の義務について学ぶ	
7	教職(保育)者の職場環境	保育者の勤務実態・保育者の職場環境作りについて学ぶ	
8	教職(保育)者の制度的位置づけ	関係法規に基づく、教職(保育)者の位置づけについて学ぶ	
9	教職(保育)者の任用と服務	法律に見る教育の身分と職務・教員の資格と免許・幼稚園教諭、保育士の制度的位置づけについて	
10	教育(保育)現場における子どもとの関わり(あそび・環境)	主体的な遊び、学び・環境による保育・子どもの遊びから学ぶ理解と援助について学ぶ	
11	家庭との連携・支援、地域との関り	家庭との連携・保護者への対応の基本姿勢、地域との関りの意義について学ぶ	
12	保育者の役割	教職観の変遷や、現代社会における教員(保育者)の役割について学ぶ	
13	園内外との連携	職員間の連携・保育園・幼稚園・小学校との連携(接続カリキュラム)について学ぶ	
14	今日的な教育課題に対応するために	「チーム学校」の考え方や、発達障害の子どもをどう理解するかについて学ぶ	
15	総括(まとめ)	よい教職者(保育者)になるために自分に必要なことについて考えを深める。	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	特別支援教育		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	特別な教育的ニーズのある子どもを含めた全ての子どもが幼稚園・保育所の中でそれぞれの自主性・自発性を発揮し生きる力の基礎を培えるようにするため、特別な教育的ニーズのある子どもの生活等における困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	特別な教育的にニーズを持つ子どもを支援するにあたって、子ども自身の特性を理解するのはもちろん、子どもを支援するために必要な社会的資源や関係機関についての知識、個別的教育支援計画の作成方法とその利用方法、教育課程と学びと生活の場のあり方についても理解を深めるよう、特別支援教育に関わる幅広い内容を示す。	
授業回数	8回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	1単位	特別な教育的ニーズのある子どもとは、具体的にどのような子どもか理解すること。 個別の教育的ニーズに対して関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解すること。	
授業担当者	後藤 明子		
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	野口和也 他『特別支援教育』 発行者 豊岡短期大学		
評価方法	レポート課題および科目試験の結果を総合的に判断する。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	特別支援教育とは	特別な教育的ニーズとは 特別支援教育と学びの場	
2	障害の理解	発達障害や軽度知的障害の心と体の育ち 子ども一人ひとりのニーズに合わせた学び	
3	障がいの理解	視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由児・病弱等を含む様々な障害のあるこどもの特性	
4	こどものニーズに合わせた支援	教育課程における支援 通常の学級における担任による支援	
5	教育チームによる組織的支援	個別の指導計画および個別的教育支援計画 アセスメントに基づく計画と評価	
6	特別支援教育コーディネーター	特別支援教育コーディネーターの役割 外部教育資源との連携と協働	
7	保護者・家庭支援と連携	保護者を取り巻く問題 保護者・家庭とのつながりの重要性	
8	特別な教育的ニーズを考える	母国語や貧困の問題による教育的ニーズの理解及び支援	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	こどもの理解と相談支援		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	こどもを理解するために、乳幼児の発達及び学び並びにその過程で生ずるつまずき、その要因を把握するための原理について学ぶ。また、その対応の一つの幼児教育（保育）現場における相談支援を学び、こどもが自己理解を深め、好ましい人間関係を築き、集団の中で適応的に生活する力を育むことを支援できることを目指す。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	相談支援の究極的な目的は、こどもの人間形成、人格形成にある。幼児、児童、生徒を対象にした現場における相談支援に重点を置き、発達と成長の基礎理論、生活指導、しつけ、学習適応等について学ぶ。また、カウンセリングの基本的態度や技法について学び、様々な心理アセスメントの内容・活用について理解を深める。	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	2単位	・幼児教育の課題と家庭との連携の在り方、心理アセスメントの活用について理解できるようになる。 ・カウンセリングの基本と心理アセスメントの活用、保・幼・小及び家庭との連携が理解できるようになる。	
授業担当者	杉山有美		
実務家教員	○		
使用テキスト 参考文献	「こどもの理解と相談支援」 稲田辰彦・大塚貴之・原田敬之・鈴木由美・原田増廣・室谷雅美 著		
評価方法	授業態度、課題、試験を総合的に判断する。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	相談支援の実際①	発達障害、自閉・情緒障害、特別な配慮を要するこどもたちについて学ぶ	
2	相談支援の実際②	不登園・不登校、いじめ、虐待、非行と小・中学生の心理アセスメントについて学ぶ	
3	こどもの実態に応じた発達や学びの把握	こども理解の意義、養護と教育の一体的展開、幼児理解を深める教師に必要な資質・力量について学ぶ	
4	相談支援の基本	相談支援の基本、カウンセリングの基本（意義・理論）とカウンセリングの基本的な方法について学ぶ	
5	こどもを理解する視点	こどもの生活環境の広がり、保育の人的環境、こども相互の関わりについて学ぶ	
6	教育相談の基本	教育相談とは何か。また、保護者と連携し、保護者に対する支援を行う上で、保育者としてどのようなことに気を付けながら進めていくべきかについてまとめる。	
7	こどもを理解する方法①	知能検査、発達検査、行動観察法について学ぶ	
8	こどもを理解する方法②	保育の評価の必要性、観察・記録・省察・評価について学ぶ	
9	こどもを理解する方法③	職員間の情報共有、保護者との情報共有について学ぶ	
10	こどもの自己理解を進める技法	こどもの自己表現と自己理解の発達について学ぶ	
11	幼児・こども理解とカウンセリング・マインド	実際のカウンセリングと教師の行う相談支援の違いを学ぶ	
12	幼稚園・保育園における園児への心理的援助	保育カウンセリングの意義、保育カウンセリングにおける基本的な心構えについて学ぶ	
13	小学校における児童への心理的援助	カウンセリングの3つの様態、カウンセリングのプロセスについて学ぶ	
14	相談支援と家庭・学校・地域との連携と相談支援	保・幼・小の連携、親との連携について学ぶ	
15	相談支援の課題と対応	教育相談における校内支援体制、相談支援計画の作成について学ぶ	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	教材研究Ⅱ		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	子どもたちの興味や関心を引き出す教材を研究。子どもたちにどのような力をつけていくかという総合的な研究をする。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	教育現場における保育・教育の諸問題に対応していく具体的な教授方法や活用方法についての理解を深め、保育者として必要な資質を養う。	
授業回数	15回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	2単位	1.教育方法の変遷について理解できる。 2.教育メディア、教材・教具について理解できる。 3.幼児教育の方法と、小学校の接続について理解できる。 4.教育方法の課題と、今後の展望について自分の考えを持てる。	
授業担当者	廣瀬絵美		
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	必要に応じて紹介する		
評価方法	制作物等を総合的に評価する		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	授業ガイダンス	指導計画と教材の関係について	
2	季節に合わせた環境構成	壁面12月 1月 2月 3月	
3	季節に合わせた環境構成	壁面12月 1月 2月 3月	
4	教材研究の実際	シアター製作 エブロンシアター 立案	
5	教材研究の実際	シアター製作 エブロンシアター 製作	
6	教材研究の実際	シアター製作 エブロンシアター 製作	
7	教材研究の実際	シアター製作 エブロンシアター 製作	
8	教材研究の実際	シアター製作 エブロンシアター 製作	
9	教材研究の実際	シアター製作 エブロンシアター 実演	
10	教材研究の実際	領域「言葉」 グループワーク 立案 実践	
11	教材研究の実際	領域「音楽表現」 グループワーク 立案 実践	
12	教材研究の実際	領域「運動遊び」 グループワーク 立案 実践	
13	教材研究の実際	領域「人間関係」 グループワーク 立案 実践	
14	教材研究の実際	学習のまとめ	
15	教材研究の実際	学習のまとめ	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	こどもと体育		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	運動遊びとこどもの成長発達との関係を理解し、運動遊びの種類と遊びのどの局面がこどもの心と体や社会性の成長・発達にどのように役立つのかを理解し具体的な援助方法を習得する。同時に、こどもが楽しく、安全に遊びや運動遊びに取り組むための人的・物的環境について理解を深める。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	発達段階に応じた運動遊びを準備し、グループ毎での発表を通して、理解を深め、同時にこども達が自主的に楽しく且つ安全に展開する援助方法を学ぶ。	
授業回数	8回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	1単位	子どもの発育発達に即した運動能力を理解し、年齢にあった運動あそび(野外でのグループ・集団遊び・固定遊具遊び・大型遊具を使った遊び、鬼ごっこ遊び等)が考えら指導でき、運動遊びの指導法や安全について知識を習得する。	
授業担当者	大橋美穂子		
実務家教員	○	しゅかんてき	
使用テキスト 参考文献	なし		
評価方法	授業態度、試験等により評価する。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	オリエンテーショ ン	幼児の運動遊びについて(講義)	
2	遊具を使った遊び ①	固定遊具の安全点検と遊び	
3	遊具を使った遊び ②	様々なボールを使った遊び	
4	遊具を使った遊び ③	身近な遊具での遊び	
5	運動調整力につ いて	敏捷性・巧緻性・協応性・柔軟性・平衡性について	
6	サーキットあそび	サーキットあそび	
7	大型遊具を使った 遊び	マット・平均台・跳び箱など	
8	伝承遊び	遊具を使う伝承遊び 遊具を使わない伝承遊び	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	ピアノ技術 I		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	・ピアノ演奏を通して表現する楽しさを味わうことができるようになる。 ・保育の現場で役立つ技術や表現力の獲得を目標とする。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	保育の現場に必要な基本的なピアノ奏法の取得を目指して、幼児歌曲などの弾き歌いをを用いて学ぶ。それぞれのレベルが異なるため、レベルに合わせた指導を行う。	
授業回数	15回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	2単位	バイエル2曲(94番・102番)・ユールユーブンゲン2曲(41番・60番)・弾き歌い曲(にじ・あめふりくまのこ・雪)その他、生活の歌・季節の歌を演奏、弾き歌いできるようになる。	
授業担当者	廣瀬絵美		
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	・豊岡短期大学指定テキスト ・保育者になるためのピアノ教本 山本 学編著 エイデル研究所		
評価方法	・出席率80%であること。 ・授業態度・課題曲等の達成度を総合的に評価する。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	授業ガイダンス	豊岡短期大学課題曲の提示	
2	ピアノ実技／弾き 歌い実践	各自、課題曲の練習および担当教員との個別指導を行う。 (期末試験にて、クラス内での発表会を行う)	
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	保育実習Ⅱ（保育所）		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	自ら学んだ保育の知識、技術を基礎として、それらを総合的に実践する応用力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟させることを目的とする。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	・保育実習Ⅱ本実習10日間40時間以上を実施する。 ・部分実習・・・1回（設定保育）以上実施	
授業回数	80時間		
授業形態	実習	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	2単位	・今までの実習を踏まえ、乳幼児への理解を深める。 ・保育所の保育を実際に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。 ・保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確にする。	
授業担当者	杉山 有美		
実務家教員	○		
使用テキスト 参考文献	なし		
評価方法	実習成績評価票に基づいて評価する。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
	保育実習（保育所）	<ねらい> ・今までの実習を踏まえ、乳幼児への理解を深める。 ・保育所の保育を実際に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を修得する。 ・保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確にする。 ・観察・参加実習10日間、うち部分実習（設定保育）1日程度	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	保育実習Ⅲ（施設）		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	今までの実習を踏まえ、施設において保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化し探求していく	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	施設実習10日間以上、且つ80時間以上を実施する。	
授業回数	80時間		
授業形態	実習	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	2単位	施設利用者の特性とその養護について理解するとともに、利用者個別のニーズにあった養護の重要性について理解する。	
授業担当者	山本 佳郁代		
実務家教員	○		
使用テキスト 参考文献	なし		
評価方法	実習成績評価票に基づいて評価する。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
	今までの実習を踏まえ、施設において保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化し探求していく	<目標> ・社会福祉施設の機能と役割を理解する ・施設における保育士の役割と他職種の理解・連携のあり方を習得する ・施設利用者の特性とその養護について理解するとともに、利用者個別のニーズにあった養護の重要性について理解する <本学の定める施設の種類> ・養護系　／　乳児院、母子生活支援施設、児童養護施設、 ・障害系　／　障害児入所施設(福祉型・医療型) 児童発達支援センター（福祉型・医療型） 障害者支援施設 障害福祉サービス事業所（生活介護・自立訓練・就労支援）	

科目名	保育実習指導Ⅲ（保育所）	
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい
学科	子ども心理学科	今までの実習を踏まえ、乳幼児の理解を深める。
学年	2年	
コース	－	授業全体の内容の概要
開講時期	後期	保育の援助技術とは何かについて理解し、実習を通して、保育の援助技術を自分の物として身に付け専門性を高められるようにする。そして、それらのねらいの全てが子どもの「最善の利益を保障する」ためのものであることを理解する。
授業回数	15回	
授業形態	演習	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	1単位	保育士に求められる資質、能力、技術に照らし合わせて、自己の課題を明確にし、課題を克服する。
授業担当者	杉山 有美	
実務家教員	○	
使用テキスト 参考文献	・「保育所実習」安部和子・増田まゆみ・小櫃智子 編（ミネルヴァ書房）	
評価方法	出席率、授業態度、提出物を総合的に評価する。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	授業ガイダンス（保育実習Ⅲ概要）	保育実習Ⅲについてのねらいを学ぶ・今後の課題を明確にする
2	保育技術（絵本・紙芝居）	絵本・紙芝居の読み聞かせをグループ毎で行い、お互いにアドバイスをする
3	保育技術（手あそび・リズムあそび）	手遊びの一覧を作成・簡単なリズム遊びの実践を行う
4	保育技術（ルールのある遊び）	ルールを守る大切さ・ルールの子どもへの伝え方・実際に遊び楽しさを感じる
5	保育技術（製作あそび）	作って遊べる製作あそびを行い、事前準備や援助方法などを考える
6	生活面での援助方法（食事・着脱）	年齢別の発達について・子どもがやってみたくなる援助方法について考える
7	生活面での援助方法（排泄・睡眠）	年齢別の発達について・年齢ごとに合った援助方法について考える
8	実習課題作成	保育実習Ⅰ、職場体験から感じた課題を見直す・実習テーマを作成する
9	指導案作成	製作遊びのテーマを決めて試作を作り、指導案を作成する
10	指導案作成	集団遊びでのテーマを決め、指導案を作成する
11	実習準備	日誌の書き方の確認・関係書類の確認を行う
12	実習準備	実習日誌の確認・提出する書類の確認を行う
13	実習前総括、壮行会（巡回教員との打合せ）	実習期間中の注意事項の確認・巡回教員との打合せを行う
14	実習振り返り	事後レポート・エピソード記述を作成する
15	実習振り返り	・全員の実習中のエピソード記述を発表し、感想を伝え合う ・教育実習に向けて自己の課題を明確にし、達成するための手段を考える

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	保育実習指導Ⅱ（施設）		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	施設における保育士として必要な資質・能力・技術を習得するとともに、家庭と地域の生活状況を把握し、子ども家庭福祉ニーズに対する理解、判断力を養い、子育てを支援するために必要な能力を養う。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	○児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能について ○施設における支援の実際について ○保育士の多様な業務と職業倫理について ○保育士としての自己課題の明確化について	
授業回数	15回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	1単位	各施設の機能や役割について実習を通して学び、事後指導として施設保育士の役割や倫理観について振り返り自分なりの保育観を持つことを目指す。	
授業担当者	山本 佳郁代		
実務家教員	○		
使用テキスト 参考文献	・「事例を通して学びを深める 施設実習ガイド」加藤洋子／一瀬早百合／飯塚美穂子 編著 ミネルヴァ書房 ・その他、随時、教員による資料を配布		
評価方法	出席率、授業態度、提出物を総合的に評価する。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	授業ガイダンス	児童福祉施設の実際について学ぶとは	
2	児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能について①	各施設の概要を学ぶ	
3	児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能について②	各施設の役割と機能を学ぶ	
4	施設における支援の実際①	子どもたちを受容し、共感するとは	
5	施設における支援の実際②	個人差や生活環境に伴う子ども(利用者)のニーズの把握と子ども理解	
6	施設における支援の実際③	個別支援計画の作成と実践	
7	施設における支援の実際④	子ども(利用者)の家族への支援と対応	
8	施設における支援の実際⑤	各施設における多様な専門職との連携・協働	
9	施設における支援の実際⑥	地域社会との連携・協働	
10	職業倫理	保育士の多様な業務と職業倫理について	
11	実習準備①	各実習先の事前調査	
12	実習準備②	実習目標・具体策の設定	
13	実習準備③	実習日誌の書き方	
14	実習準備③	実習前壮行会、巡回教員との打ち合わせ	
15	実習事後指導	実習を終えて、担当教員と面談 今後の自己課題の明確化	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	こどもの指導法「健康」		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	乳幼児期は、生涯にわたって必要となる健康な心と身体の基礎を作る重要な時期である。子どもの健康を守り育てるためには実際の保育場面で子どもの発達をどのようにとらえ、どのような内容について、どのように指導し援助するのが効果的かについて積極的に関与し、子どもの個々の健康状態を評価する能力を養う。	
学年	2年		
コース	—	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	乳幼児期の健康に起案する幅広い知識と個々の発育・発達の状態にあった配慮の仕方、子どもが健康でたくましく育つための具体的方法について、現代社会の子どもを取り巻く生活環境にも目を向けながら子どもの積極的な健康指導を目指す。	
授業回数	8回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	1単位	領域「健康」のねらいと内容が理解できる。健全な発育、発達を阻害している健康問題を認識、考察し、健康保持の生活についてアプローチしようとする力を養う。	
授業担当者	杉山 有美		
実務家教員	○		
使用テキスト 参考文献	・「保育所保育指針」・「幼稚園教育要領」 ・その他、随時プリント配布		
評価方法	グループディスカッション等と試験の結果を総合して評価する。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	領域「健康」の意味	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育、保育要領のねらいと内容の理解	
2	乳幼児の心身の発育・発達	年齢ごとの発育、発達にしついて学ぶ	
3	乳幼児の心の健康	心の健康、健康と虐待について	
4	基本的生活習慣の形成	基本的生活習慣とは・援助方法・環境構成について学ぶ	
5	子どもの遊びと健康	子どもにとって遊びとは・子どもの健康を守る遊びの大切さについて学ぶ	
6	安全教育と安全管理	乳幼児の事故・実際に起こっている事故・どのような安全対策を行っているのか学ぶ	
7	健康と自然環境	子どもにとって自然環境の大切さ・自然を使った遊びについて学ぶ	
8	保幼小連携とまとめ	保幼小連携と保育内容「健康」のまとめ	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	こどもの指導法「環境」		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	保育内容「環境」のねらい及び内容について理解を深めるとともに、乳幼児の発達に即して、具体的な指導場面を想定して保育を構想	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	こどもは、様々な環境の中で生活している。それは家庭・地域社会・保育所・幼稚園・認定こども園であり、また「物的環境」「人的環境」「自然環境」「社会環境」の中で生活している。様々な生活経験を通して、人格形成をはじめ思考力・創造力・創造力等を学んでいく。本科目では、環境とは何かを理解しそこにどう関われるかを中心に、保育現場における具体事例をあげていく。	
授業回数	8回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	1単位	保育内容の「環境」のねらいと内容を理解する。こどもを取り巻く様々な環境の理解と関心を持つ。保育者の役割を常に考え、保育実践力をつける。	
授業担当者	田中美幸		
実務家教員	○		
使用テキスト 参考文献	・「新こどもと環境」理論編 小田豊著 ・「新こどもと環境」実技・実践編 小田豊編 ・「子ども環境から考える保育内容」大橋貴美子・三宅茂夫編 ・「幼稚園教育要領解説」並びに「保育所保育指針解説書」 ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説		
評価方法	レポート、科目試験の結果を総合して評価する。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	「環境」とは	環境という言葉、環境の定義・環境を通して行う保育の意味について学ぶ	
2	領域「環境」に位置付け	ねらいと内容・指導上の留意点と指導計画・評価の考え方について学ぶ	
3	身近な環境の構成（指導案の構成と作成）	指導案の作成による人的環境、物的環境の理解・自然環境、社会文化環境を学び理解する	
4	保育における環境の重要性と小学校との連続性	好奇心、探求心・思考力の芽生えについて学ぶ	
5	保育環境のデザイン	視聴覚教材を利用した室内・室外環境の理解・指導案の作成を行う	
6	保育者の3つの役割	①環境要素の一つ ②保育実践から見えるコーディネーター的役割③子ども同士の関わり合いから考える保育構想	
7	さまざまな環境との出会い	標識、文字との出会い・数量と図形、ものの性質との出会いについて学ぶ	
8	こどもの遊びの世界における「3間」の意味と保育の課題	指導案作成における3間（時間・空間・仲間）の重要性と表示方法指導と小学校との連携理解について学ぶ	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	こどもの指導法「音楽表現」		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	領域「表現」の「音楽表現」に視点を置き、領域「表現」の全体目標への到達を目指し、より具体的、実践的、対話的な保育実践の方法を習得する。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	通年	領域「表現」の目標を理解するとともに、音楽を通した様々な表現活動の在り方や実践の方法を具体的に理解する。	
授業回数	5回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	2単位(3年間)	感性と表現に関する領域「表現」のねらいと内容を理解するとともに音楽表現活動に必要な知識を習得し理解を深める。また、模擬保育を行い、実践力を高める。	
授業担当者	小関 宏美		
実務家教員	○		
使用テキスト 参考文献	豊岡短期大学指定テキスト		
評価方法	授業態度、実技・技能評価及び科目試験を総合的に評価する。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	3, 4, 5歳児の「声」の発達と表現活動の理解と実践	乳幼児の「声」に合わせた表現活動を育む伴奏法	
2	「わらべうた」や「伝承遊び」などにおける実践	「わらべうた」や「伝承遊び」などに親しむための指導法	
3	領域「表現」と他の領域との関わりの理解と応用	他の領域と関連した生活や行事などをテーマにした曲の理解と弾き歌いの実践	
4	楽器による表現活動の理解の実践	乳幼児の「楽器あそび」や器楽合奏に親しむための指導法	
5	指導案の作成のポイントと模擬授業の進め方	模擬保育に使用する歌や曲の教材研究と伴奏法の実践	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	こどもの指導法「造形表現」		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	絵の表現の発達の流れを理解した上で、保育や絵の指導にあたることはとても大切である。また、絵の表現の発達の道筋は、個人差があり流動的に考えるようにする。保育者として、絵や造形表現の指導や援助をどのようにしていきたいか考えながら学ぶ。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	造形表現の「ねらい」と「内容」を踏まえ、現場を具体的にイメージし、指導法を考えていく。	
授業回数	8回		
授業形態	講義・演習	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	1単位	幼児の感性、興味を見出し、豊かで安定した子どもを育てる指導者としての自覚を持ち、具体的かつ効果的な指導法を身につける。	
授業担当者	山本宗平		
実務家教員	○		
使用テキスト 参考文献	豊岡短期大学指定テキスト		
評価方法	授業態度、提出物、科目試験の結果を総合して評価する。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	授業ガイダンス及び造形表現の意義について	幼児の造形表現の意義と内容について学ぶ。	
2	子どもの絵の発達と道筋について	子どもの絵の発達と基本について学ぶ。	
3	造形活動の支援・環境づくりについて	表現活動における環境構成及び用具・材料の種類及び指導・援助の方法について学ぶ。	
4	『絵をかく』について	絵をかく喜び及び絵の指導や支援のポイントについて学ぶ。	
5	『つくって遊ぶ』について	手の活動の発達と指導のポイント及びつくる活動の指導のポイントについて学ぶ。	
6	『造形あそび』について	造形あそびの種類と内容及び造形あそびの実践について学ぶ。	
7	道具・用具及び材料の指導について	ハサミ、ステープラ、その他、危険が伴う用具類の指導及び指導法について学ぶ。	
8	試験	試験	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	こどもの指導法「言語表現」		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	本授業は、乳幼児期における各発達段階のこどもに相応しい言語表現活動の展開と指導法を学習し、乳幼児期のこどもの言語表現活動を指導することができるような基本的知識と技法を身につけることを目標とする。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」と、幼児の心の表現を学び、言語表現に利用できる児童文化財の作成を試みる。作成した児童文化財を用いての表現演習を通して、言語表現活動の指導法について、問題点を出し合い、解決する力を身につける。また、国内外の実践保育について調査し、その取り組みについて考える。	
授業回数	8回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	1単位	幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」と、幼児の心の表現を学び、言語表現に利用できる児童文化財の作成を試みる。作成した児童文化財を用いての表現演習を通して、言語表現活動の指導法について、問題点を出し合い、解決する力を身につける。また、国内外の実践保育について調査し、その取り組みについて考える。	
授業担当者	井上充子		
実務家教員	○		
使用テキスト 参考文献	なし		
評価方法	受講態度30%、単位認定試験50%、課題20%(豊岡短大評価基準)により次のように評価 A:80点以上、B:70～79点、C:60～69点、D:上記以外		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	こどもの言語表現指導法と指導案の作成	・幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」の内容 ・言語表現の指導法及び指導案の作成	
2	児童文化財による乳幼児の言語表現活動	・言語表現活動の意義と範囲 ・言語表現教材の指導法及び模擬保育の指導法	
3	言語表現が豊かなになる児童文化財の指導	・絵本の読み聞かせや紙芝居等の活用と留意点 ・わらべ歌遊びや言葉遊び等の活用と留意点	
4	言語表現を育む児童文化財の作成とその指導(1)	・絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等の教材の作成と情報機器の活用法 ・絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等の教材活用の指導法	
5	言語表現を育む児童文化財の作成とその指導(2)	・絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等の教材と情報機器を活用した指導案の作成 ・絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等による模擬保育と評価方法・振り返り	
6	言語表現を育む児童文化財の作成とその指導(3)	・わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等の意義及び教材の活用と指導法 ・わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等のAV教材活用と留意点	
7	言語表現を育む児童文化財の作成とその指導(4)	・わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等のAV教材を活用した、指導案の作成と評価方法 ・わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等の模擬保育と振り返り	
8	年間指導計画	年間指導計画への位置づけと指導案の作成、並びに保幼小連携について	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	こどもと音楽Ⅱ		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	・ピアノ演奏を通して表現する楽しさを味わうことができるようになる。 ・ピアノ技術や表現の獲得を目標とする。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期		基本的なピアノ奏法の取得を目指し、グレード試験を実施する。確実にピアノ技術を身につけていけるよう、レベルに合わせた指導を行う。	
授業回数	15回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	2単位	グレード試験を2回実施し、より上級を目指す。 7級取得を目指し、達成している場合はより上級を目指す。	
授業担当者	山本 佳郁代		
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	「バイエル」・「ブルグミュラー」・「チェルニー30番」・「ソナチネ」 全音楽出版社		
評価方法	授業態度(10点満点)、グレード試験(各級の点数)、完成度(10点満点)により評価		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	ピアノ実践	○グレード試験 10級 バイエル:30～60番 9級 バイエル:61～100番 8級 バイエル:100～104番 7級 ブルグミュラー:1～14番 6級 ブルグミュラー:15～20番 5級 ブルグミュラー:21～25番 4級 ソナチネ:4番、7番、8番、9番 3級 ソナチネ:1番、6番、10番、12番 2級 ソナチネ:2番、3番、5番、11番 1級 ソナチネ:13番、14番 ○一人ひとりの進捗状況を確認する。 ○採点基準 10～8級:50点 7級:60点 6級:65点 5級:70点 4級～1級:80点 完成度:10点 授業程度:10点 ○グレード試験は、当日弾く曲を伝え実施する	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	健康論		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	領域「健康」の指導に関する乳幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての理論的学習を身につける。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	乳幼児期は、生涯にわたって必要となる健康な体な心と体をつくる重要な時期である。幼児期の運動発達における大人との相違について映像資料や事例を活用し、幼児期において多様な動きを獲得していくことの意義と重要性を理解できるようにする。また、乳幼児期の子どもたちの健康に対する知識と発育発達について学ぶ。	
授業回数	8回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	1単位	健康に対する考え方を理解し簡潔に述べることができる。また、幼児期における健康について、生活習慣と生活リズムが深く関係していることを保育者の立場で述べることができる。 乳幼児期における健康は、日常における生活環境が大きく関係して成立していることを理解するとともに、健康成立にかかわる様々な問題について取り組むことができるようにする。	
授業担当者	山本佳郁代		
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	・「健康論」 廣田邦生、泉一郎、城弘子、井上勝子、栗岡あけみ、令和3年4月1日、豊岡短期大学通信教育学部 ・「幼稚園教育要領解説」 文部科学省、平成30年、フレーベル館 ・「保育所保育指針解説書」 厚生労働省、2018年、フレーベル館 ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 内閣府・文部科学省・厚生労働省、平成30年、フレーベル館)		
評価方法	レポート、科目試験の結果、授業態度を総合的に評価する。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	乳幼児と健康	乳幼児の心と体の発達と健康課題	
2	乳幼児期の諸機能の発達と健康課題	健康の定義と乳幼児期の健康の意義	
3	乳児期の体の発達の特徴	乳幼児の基本的な生活習慣の形成とその意義	
4	乳幼児期の安全教育に関する基本的な考え方	乳幼児の健康管理に関する基本的な考え方	
5	乳幼児期の怪我の特徴や病気の予防	乳幼児の危険に関するリスク・ハザード	
6	乳幼児期の運動発達の特徴	乳幼児期の生活・遊びと安全管理	
7	乳幼児期において多様な動きを獲得することの意義	日常生活における乳幼児の動きの経験やその配慮	
8	乳幼児の身体活動の在り方	運動能力・知覚・認知の発達	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	環境論		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	1. 乳幼児期のこどもの発達と環境の関係性を考える 2. 環境を通して行う保育の意味を知る 3. 保育環境のデザインを実践できる 4. 様々な環境との出会いを理解する	
学年	2年		
コース	—	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	こどもを取り巻く環境は様々であり、その中でこどもは生活をしている。具体的な環境例を示しながら、それらとこどもの発達の関係性を考える。また、環境を通して行う保育の意味をしっかりと学習し、保育者自身が保育環境をデザインする力を身につける必要がある。そのために様々な環境との出会いに気づき、それについて深く学ぶ。	
授業回数	8回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	1単位	環境を通して行う保育の意味をしっかりと理解する。保育における環境の意義・種類を学習し、保育環境のデザインが出来るようになる。 保育における環境の意義・種類を理解し、保育者の専門性の意味を知る。	
授業担当者	山本佳郁代		
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	・「環境論」 長谷雄一、伊藤宏俊、位田かづ代、栗岡あけみ、平成31年3月31日、豊岡短期大学通信教育学部 ・「幼稚園教育要領解説」 文部科学省、平成30年、フレーベル館 ・「保育所保育指針解説書」 厚生労働省、2018年、フレーベル館 ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 内閣府・文部科学省・厚生労働省、平成30年、フレーベル館)		
評価方法	レポート、科目試験の結果、授業態度を総合的に評価する。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	環境の定義	①環境という言葉、環境の定義 ②環境を通して行う保育の意味	
2	領域「環境」に位置付け	①ねらい・内容 ②内容の取扱・指導計画	
3	保育における環境(保育と環境)	①人的環境・物的環境 ②自然環境、社会・文化環境	
4	幼児の身近な環境との関わり	①室内・室外 ②文字・標識・数量・図形	
5	行事	①季節の行事 ②地域の行事	
6	地域・施設との関わり	①各施設の訪問 ②国際理解	
7	地域探検	①住んでいる町を知ろう	
8	保育者としての専門性の向上	①専門性の向上 ②保育マインドの向上	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	教育方法論		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	教育方法の定義・意義・守備範囲など大きな概念について基礎知識を習得し、教育目標、教育内容、評価との関係性についての理解を深めるとともに、教育・保育現場における様々な課題を解決する教育・保育方法とその活用についての理解を深め、保育者として必要な資質を培う。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	教育方法の定義と意義についての知識を習得したのち、歴史的変遷を概観することを通して先人がどのような思想のもとに教育方法を展開してきたのかを考察する。さらに教育に活用できる情報機器、教材・教具についての理解を深めたのちに学習指導の理論と授業の方法、評価について理解する。また、幼児教育・保育の方法、小学校教育との連続について考察し、今後の課題と展望について検討する。	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	2単位	1.教育方法の変遷について理解できる。 2.教育メディア、教材・教具の活用について理解できる。 3.幼児の理解と幼児教育・保育の方法、分析、評価について理解できる。	
授業担当者	伊藤 知圭子		
実務家教員	○		
使用テキスト 参考文献	・「教育方法論」 令和2年4月1日、豊岡短期大学通信教育学部 ・「幼稚園教育要領解説」 文部科学省、平成30年、フレーベル館		
評価方法	授業態度20%,レポート20%、科目試験60%で評価する。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	教育方法とは何か	教育方法の定義と意義・教育方法の守備範囲について学ぶ	
2	教育方法の歴史的展開①	西洋の教育方法について学ぶ	
3	教育方法の歴史的展開②	近代・現代の教育方法について学ぶ	
4	教育方法の歴史的展開②	日本の教育方法について学ぶ	
5	教育技術の革新と情報機器の活用	ICTを取り巻く環境・教育におけるICTの活用・リテラシーと新たな課題について学ぶ	
6	教材・教具の理解と活用	教材と教具・さまざまな教材と教具について学ぶ	
7	特色ある授業実践	さまざまな授業、学習形態・教育実践の多様な形態について学ぶ	
8	教育現場における授業技術	授業実践の技術について学ぶ	
9	授業分析と授業評価	授業分析の方法・学習の評価・保育に関する記録と評価について学ぶ	
10	授業の展開の構想	遊びを通しての総合的な指導について学ぶ	
11	教育における評価と振り返り	PDCAサイクル・保育記録を書くことの意義について学ぶ	
12	幼児の理解と幼児教育の方法	幼児の理解・環境を通して行う教育について学ぶ	
13	近代以降の幼児教育の方法	オーエンと幼児教育・フレーベルと幼児教育・モンテッソーリと幼児教育について学ぶ	
14	幼児教育内容と小学校の教育内容	小学校教育との連携・小学校とのなめらかな接続について学ぶ	
15	教育方法の課題と展望	学習指導教育要領改訂における基本的な考え方・主体的、対話的で学びの深い学びについて学ぶ	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	こどもの表現と技法Ⅱ		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	幼児の生活する姿の中から発達の実情を理解し、適切な環境を幼児の生活に沿って構成し、豊かな感性をはぐくむ幼児の活動が充実するよう援助する方法を学ぶ。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	・幼児が興味関心を抱き、主体的に関われる環境構成の工夫。 ・幼児の表現意欲を高めるための援助の工夫。 ・保育の展開の基礎を理解し、実習等の実践につなげる技術を身につける。	
授業回数	15回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	2単位	こどもの発達に必要な経験が積み重ねられるような環境を考えると共に、人的環境としての保育者の役割の重要性を理解する。	
授業担当者	井上充子		
実務家教員	○		
使用テキスト 参考文献	必要に応じて紹介する。		
評価方法	課題(60%)、授業態度(40%)により次のように評価 A:80点以上、B:70～79点、C:60～69点、D:上記以外		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	保育環境	春の壁面構成	
2	こどもが喜ぶシアター	手袋シアター制作① 立案・制作	
3	こどもが喜ぶシアター	手袋シアター制作 ② 制作	
4	こどもが喜ぶシアター	手袋シアター制作 ③ 制作	
5	こどもが喜ぶシアター	手袋シアター制作 ④ 制作	
6	こどもが喜ぶシアター	手袋シアター制作 実演発表	
7	保育環境	夏の壁面構成	
8	こどもが喜ぶシアター	エプロンシアター制作① 立案・制作	
9	こどもが喜ぶシアター	エプロンシアター制作② 制作	
10	こどもが喜ぶシアター	エプロンシアター制作③ 制作	
11	こどもが喜ぶシアター	エプロンシアター制作④ 制作	
12	こどもが喜ぶシアター	エプロンシアター制作⑤ 制作	
13	こどもが喜ぶシアター	エプロンシアター制作⑥ 制作・仕上げ	
14	こどもが喜ぶシアター	エプロンシアター制作⑥ 実演発表会	
15	保育環境	初秋の壁面構成	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	教育実習指導 I		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	実習に向けて、学習の意義・目的を理解し、保育について知識・技能・態度等を総合的に学ぶ。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	教育実習の意義と目的、実習生としての心構えを学ぶ。また、幼児の発達の特性や発達過程を踏まえ、幼児理解や観察の視点・方法、指導案作成等の習得に努めるとともに、目標を持って実習に臨む態度を育成する。	
授業回数	15回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	2単位	教育実習で行う手続き・準備・心構えを確認し、実習中に行う実技等を身に付ける。	
授業担当者	井上充子/廣瀬絵美		
実務家教員	○		
使用テキスト 参考文献	幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園保育・教育要領解説 豊岡短期大学通信教育部テキスト「幼稚園教育実習事前・事後指導」、北大路書房「保育の現場を知る「幼稚園実習(新版)」」		
評価方法	授業態度10%、教育実習に臨むに当たっての理解・心構え40%、指導案の作成実演50%により次のように評価 A:80点以上、B:70～79点、C:60～69点、D:上記以外		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	実習に向けて	幼児向け自己紹介シアター 立案	
2	実習に向けて	幼児向け自己紹介シアター 製作	
3	実習に向けて	幼児向け自己紹介シアター 製作	
4	実習に向けて	幼児向け自己紹介シアター 製作	
5	実習に向けて	幼児向け自己紹介シアター 製作・仕上げ	
6	部分実習指導案作成について	・教員による模擬保育 ・指導案の書き方	
7	部分実習指導案作成①	・部分実習 指導案作成、教材研究①(グループワーク二人組)	
8	部分実習指導案作成②	・部分実習 指導案作成、教材研究②(グループワーク二人組)	
9	部分実習指導案作成③	・部分実習 指導案作成、教材研究③(グループワーク二人組)	
10	演習 部分実習模擬保育	お互いの模擬保育を見合い考察(グループワーク)	
11			
12			
13			
14			
15	教育実習用資料作成	「実習生について」の記入	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	教育実習事前・事後指導		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	実習に向けて、学習の意義・目的を理解し、保育について知識・技能・態度等を総合的に学ぶ。	
学年	2・3年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	(事前)2年後期 (事後)3年前期	教育実習の意義と目的、実習生としての心構えを学ぶ。また、幼児の発達の特性や発達過程を踏まえ、幼児理解や観察の視点・方法、指導案作成等の習得に努めるとともに、目標を持って実習に臨む態度を育成する。また、実習後、総括と自己評価を行い、課題や目標を明確にする。	
授業回数	(事前)5回 (事後)3回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	1単位	教育実習で行う手続き・準備・心構えを確認し、実習中に行う実技等を身に付ける。	
授業担当者	井上充子		
実務家教員	○		
使用テキスト 参考文献	・教育実習事前・事後指導」(豊岡短期大学) ・「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)		
評価方法	受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する(評価はルーブリック評価を用い行う)※事前指導スクーリングでは(学習のまとめ・授業態度40点、教育実習に臨むに当たっての意気込み・心構え40点、指導案の作成20点(豊岡短期大学評価基準により))も含めて100点満点で評価し60点以上で合格すれば、教育実習申込条件を一つ満す。事後指導スクーリングにおいて、100点満点で評価し、成績評価を行う。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	スクーリング 実習の意義と目的	・保育者としての倫理 ・実習生としての心構え	
2	スクーリング 観察の視点	・実習日誌の書き方 ・幼児理解と保育	
3	スクーリング 指導案の作成について	・指導案とは何か ・指導案作成の実際	
4	スクーリング 指導案作成	指導案発表会	
5	スクーリング 学習のまとめ	自分の「実習の目標」を作成する	
6	スクーリング 教師の役割	幼稚園教育要領解説 教師の役割	
7	スクーリング 幼児理解と学び	実習の振り返り グループ討論	
8	スクーリング 教育実習の総括	単位認定試験	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	職場体験		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	＜1年次＞ 職場体験にあたり、心構えを学習する。幼稚園・保育所の生活に参加し、幼稚園教諭・保育士の仕事の実験を体験することで、子どもと関わる仕事のイメージ化を図る。 ＜2年次＞ 保育所保育の意義を知り、乳児の特性を理解し、実習に生かせる知識・技術を学ぶ。	
学年	1年・2年		
コース	－		
開講時期	通年	授業全体の内容の概要	
授業回数	48時間	①幼稚園での1日の流れと保育者の業務を体験する。(1年次・第一ひかり幼稚園8時間) ②自らが希望する保育所において、1日の流れと保育者の業務を体験する。また、実習のイメージを持つ。(1年次・保育所40時間) ③小規模保育園での1日の生活の流れ、子どもの様子を知り、部分実習を行うことで、環境構成・声掛け・援助の方法などの大切さを学ぶ。(2年次キッズハウスひかり7時間)	
授業形態	実習		
取得単位数	1単位		
授業担当者	担任	授業修了時の達成課題(到達目標)	
実務家教員	○	実習に向けて、自己の課題を明確にする。	
使用テキスト 参考文献	なし		
評価方法	出席率、受業態度、提出物を総合的に評価する。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
		＜1年次＞ ○第一ひかり幼稚園8時間体験 1. 幼稚園の目的を知る 学校教育法、教育課程 第一ひかり幼稚園を知る 2. 1日体験 3. 事後指導 ○保育所体験40時間 4. 保育所の目的を知る児童福祉法、保育課程 5. 5日体験 6. 事後指導 ＜2年次＞ ○キッズハウスひかり7時間体験 1. 1年次の職場体験の反省から今年度の目標を決める 2. 保育園の種類・保育士の仕事について 3. 小規模保育園の1日の流れを知る 4. 1日体験(保育士の勤務体制が整わない等の理由により、1日体験の受け入れが困難な場合、不足分の実習時間を演習に振り替えて行なう。) 7:30～12:30保育所内実習(5時間)＋演習(13:30～16:30) 5. 事後指導	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	地域ボランティア		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	ボランティアの理念、目的、意義を身近な社会で体験的に学習することで、社会貢献の意義を理解し、実社会が求める人間力を涵養することを目的とする。	
学年	1・2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	2年間	活動前には参加にあたっての心構えを学び、実際の活動に参加する。子どもの分野に限らず、教員が許可したものであれば活動は可能とする。また、参加後には事後レポートを記入する。	
活動時間	40時間		
授業形態	実習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	1単位	市民団体や公共機関などでボランティア体験することで、社会の一員として必要な自主性・創造性を養う。	
授業担当者	担任		
使用テキスト 参考文献	必要に応じて紹介する。		
評価方法	活動への参加状況・参加報告書・事後レポート等を総合的に評価する。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
		〈活動の参加にあたって〉 ①活動内容 担任を介して紹介する活動 自主的に選んだ活動(学校に許可を求める) ②参加のマナー 5分前行動、服装、髪型、挨拶、礼儀、感謝の気持ち、事後報告 ③参加カード・活動報告書・活動を終えて 参加後1週間以内に参加カードと報告書を提出し、担任より検印をもらう。全ての活動を終わったら「活動を終えて」を書く。 ④評価について 40時間以上の活動を原則2年間で終了させる。 ⑤1つの活動が2時間以上のもの あまりに短いものは、活動の成果が得られにくいので、1活動2時間以上とする。 ⑥移動時間、休憩時間は含まない ⑦一度申し込んだら欠席しない ボランティア活動は、開校以来続いている活動であり、学校の名前を背負って参加するという意識を持つこと。万が一、体調不良等で欠席する場合は、まず担任に相談、その後活動先へ連絡すること。 ⑧マナーを大切にする 主催者と学生にとって、お互いに気持ちの良い時間となるよう思いやりと配慮を忘れない。また、ゴミの持ち帰りやカバンの置く場所、一緒に参加する人のおしゃべりなど気をつけるように。	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	保育実習事前研修		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	実習に向けて、学習の意義・目的を理解し、保育について知識・態度等を総合的に学ぶ。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期・後期	・園や子どもの様子、特色、一日の流れを知る。	
授業回数	40時間	・本実習に向けての目標を定める。	
授業形態	実習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	1単位	保育実習で向けての準備・心構えを確認し、目標に到達するための手立てを考える。	
授業担当者	杉山有美		
実務家教員	○		
使用テキスト 参考文献	なし		
評価方法	実習日誌、態度等を総合的に評価する。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
		<目標> 保育所の生活に実際に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、各施設の機能と保育士の職務について学ぶ。	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	ゼミナール I		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	自己理解を深め自身の強みや弱みを正しく把握しながら、物事に対して意欲的に取り組む姿勢を身につけ自己成長につなげる。 自己研鑽に取り組み自分自身を鍛えてスキルや知識に磨きをかける。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前・後期	・物事に取り組む過程で気付いた強みや課題を振り返り、自己理解を深める。また、自分の強みを活かしながらその課題を克服するための具体的なアクションプランまで導き出す。(KPT法)	
授業回数	30回	・自分の強みや価値観、興味・関心を把握し、それをもとにやってみたいことや成し遂げたいことを見つけ主体的に自分磨きに取り組む。	
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	2単位	自己を見つめ直す機会を有効に使い、自身の能力を高めながら精神的な向上を目指し、スキルアップや自己成長につなげる。また、主体的な活動・研究・フィールドスタディを通して、自信がつくだけでなく就活に役立つスキルの向上も図る。	
授業担当者	井上充子		
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	必要に応じて紹介する。		
評価方法	取り組み姿勢・意欲(80%)理解・レポート課題(20%)を次のように評価 A: 80点以上、B: 70～79点、C: 60～69点、D: 上記以外		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	ガイダンス	ゼミナール I の進め方を理解する	
2	自己理解 (KPT法)	Keep…すでにより結果が得られている取り組みを今後も継続していくべきアクションとして整理	
3		Problem…解決すべき課題やボトルネックになっている部分を明らかにする	
4		Try…実行すべき施策を意味し、課題解決や改善に向けたプランを立てて実行 物事に取り組む過程で気付いた強みや課題を振り返り、自己理解を深める 自分の強みを活かしながらその課題を克服するための具体的なアクションプランを導き出す	
5	Problem(課題) Try(努力)	考えるべき課題や問題を明らかにする 課題解決や改善に向けたプランを立て取り組む 「情報収集・調べ学習・フィールドスタディ」	
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13	共有	活動の成果や現状を共有(中間発表)	
14	自分磨き	自分の強みや価値観、興味・関心を把握し、それをもとにやってみたいことや成し遂げたいことを見つける 「情報収集・調べ学習・フィールドスタディ」	
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25	発表準備	研究発表に向けて活動のまとめ PowerPoint作成 発表原稿作成 発表練習	
26		「自分磨き」 各自のテーマに沿い、活動・研究・成果 発表	
27			
28	研究発表	「自分磨き」 各自のテーマに沿い、活動・研究・成果 発表	
29			
30	振り返り	研究のまとめ・今後への展望	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	保育研究Ⅰ		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	児童福祉の理念および保育者の役割について研究する。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前・後期	講義・演習…15時数、1単位 及び、 校外活動…40時数、1単位	
授業回数	講義15	実習が終了している場合、出席票の提出を以って活動時数に読み替える 実習に参加していない場合は、当該学生に必要なと考えられる検定を1つ以上取得する。	
授業形態	演習・実習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	2単位	主テーマをもとに自己テーマを設定し、それに沿った保育研究を通して、保育に対する知識を増やす。 職業観を持つための一般常識やコミュニケーションスキルを身につける。	
授業担当者	担任		
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	資料・プリントを配布する。 必要に応じてテキストを購入。		
評価方法	授業での成果物と、資格検定試験1つの合格を以って「認定」とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
〈講義〉 1	ガイダンス	課題設定（研究について 検定について 自主的な活動について）	
2	検定取得に向けた学習①	個々に目指す検定の勉強 検定試験に向けたスケジュール作成と取り組み	
3	検定取得に向けた学習②	個々に目指す検定の勉強 検定試験取得のための取り組み	
4	研究テーマ設定	主テーマをもとに、自ら学びたい内容を検討し、学習計画を作成する。	
5	研究①	テーマをもとに、テキスト等を使用しながら、児童福祉の理念および保育者の役割について調べる。	
6	研究②	テーマをもとに、テキスト等を使用しながら、児童福祉の理念および保育者の役割について調べる。	
7	研究③	校外活動先について調べる。 事前準備(記録の書き方)	
8	研究④	校外活動を終えての振り返りと研究のまとめ	
〈実習〉	校外活動	校外活動へ参加。（40時間参加）	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	保育研究Ⅱ		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	保育所を除く、児童福祉施設について研究する。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前・後期	講義・演習…15時数、1単位 及び、 校外活動…40時数、1単位	
授業回数	講義15	実習が終了している場合、出席票の提出を以って活動時数に読み替える 実習に参加していない場合は、当該学生に必要なと考えられる検定を1つ以上取得する。	
授業形態	演習・実習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	2単位	主テーマをもとに自己テーマを設定し、それに沿った保育研究を通して、保育所を除く児童福祉施設に対する知識を増やす。 職業観を持つための一般常識やコミュニケーションスキルを身につける。	
授業担当者	担任		
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	資料・プリントを配布する。 必要に応じてテキストを購入。		
評価方法	授業での成果物と、資格検定試験1つの合格を以って「認定」とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
〈講義〉 1	ガイダンス	課題設定（研究について 検定について 自主的な活動について）	
2	検定取得に向けた学習①	個々に目指す検定の勉強 検定試験に向けたスケジュール作成と取り組み	
3	検定取得に向けた学習②	個々に目指す検定の勉強 検定試験取得のための取り組み	
4	研究テーマ設定	主テーマをもとに、自ら学びたい内容を検討し、学習計画を作成する。	
5	研究①	テーマをもとに、テキスト等を使用しながら、特に興味を持った児童福祉施設(保育所除く)について調べる。	
6	研究②	テーマをもとに、テキスト等を使用しながら、特に興味を持った児童福祉施設(保育所除く)について調べる。	
7	研究③	校外活動先について調べる。 事前準備(記録の書き方)	
8	研究④	校外活動を終えての振り返りと研究のまとめ	
〈実習〉	校外活動	校外活動へ参加。(40時間参加)	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	保育研究Ⅲ		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	保育所を含めた児童福祉施設について研究する。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前・後期	講義・演習…15時数、1単位 及び、 校外活動…40時数、1単位	
授業回数	講義15	実習が終了している場合、出席票の提出を以って活動時数に読み替える 実習に参加していない場合は、当該学生に必要なと考えられる検定を1つ以上取得する。	
授業形態	演習・実習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	2単位	主テーマをもとに自己テーマを設定し、それに沿った保育研究を通して、保育所を含めた児童福祉施設に対する知識を増やす。 職業観を持つための一般常識やコミュニケーションスキルを身につける。	
授業担当者	担任		
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	資料・プリントを配布する。 必要に応じてテキストを購入。		
評価方法	授業での成果物と、資格検定試験1つの合格を以って「認定」とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
〈講義〉 1	ガイダンス	課題設定（研究について 検定について 自主的な活動について）	
2	検定取得に向けた学習①	個々に目指す検定の勉強 検定試験に向けたスケジュール作成と取り組み	
3	検定取得に向けた学習②	個々に目指す検定の勉強 検定試験取得のための取り組み	
4	研究テーマ設定	主テーマをもとに、自ら学びたい内容を検討し、学習計画を作成する。	
5	研究①	テーマをもとに、テキスト等を使用しながら、特に興味を持った児童福祉施設について調べる。	
6	研究②	テーマをもとに、テキスト等を使用しながら、特に興味を持った児童福祉施設について調べる。	
7	研究③	校外活動先について調べる。 事前準備(記録の書き方)	
8	研究④	校外活動を終えての振り返りと研究のまとめ	
〈実習〉	校外活動	校外活動へ参加。（40時間参加）	